

中華台北のご紹介

～東倉 雄三 渉外部会 中華圏担当 記～

<中華台北 剣道の歴史>

1895年に中華台北（台湾）が日本統治になり、その時代に日本より中華台北に剣道が伝わっていきました。

現在も中華台北には、80歳を超える剣道の指導者の先生がおられ、日本語を上手に話される方も多数おられます。

中華台北は、歴史的背景から、名前を「チャイニーズタイペイ」とし、第一回の世界剣道選手権大会から参加しており、前回までの15回の大会の中、男子団体は準優勝1回、3位5回の世界的には剣道の強豪国です。

<現在の剣道事情と今回の参加者の背景>

中華台北は人口約2300万で、人口、土地面積等 ちょうど九州の1.1倍程の規模になります。

その中で、剣道の登録人口は1万人以上になりますが、現在、稽古をされている活動人口は約6000人とされておりまして。

日本とも地理的にも歴史的にも非常に近い存在の中華台北では、日本同様、小学生から剣道を学ぶ道場も沢山普及しており、夏休みの道場連盟の日本武道館の大会には、中華台北の道場から参加もされておりまして。

今回、参加頂く陳 信寰（チェン シンフアン）先生は、中華台北の南の都市 高雄に住んでおられる八段の先生。ペンネームも「武蔵」と言われ、日本語も流暢です。

陳先生の道場は、中華台北でも重要文化財になっている武徳殿で行っている道場で、毎年3月頃に国際大会も開かれ、日本からも著名な先生も参加される様な大会も首肯されています。

また、陳 承霖（チェン・チェンリン）選手は、2003年 第12回（グラスゴー大会）、2006年 第13回（台湾大会）、2009年 第14回（ブラジル大会）の時の台湾代表選手。

劉 怡婷（リュウ・イーティン）選手は、2003年 第12回（グラスゴー大会）、2009年 第14回（ブラジル大会）、2012年 第15回（イタリア大会）の時の中華台北代表選手です。厚木市選手権大会での活躍が楽しみです。

<高雄武徳殿の写真>



台湾剣道と厚木の剣道の、不思議なご縁 (滝澤建治 厚木剣道連盟会長・記)

台湾剣道の紹介記事の最後に、「不思議なご縁」をご紹介します。

私が明治大学の4年生になる春休みのこと（1963年）ですから、もう50年以上前のことになります。全日本学生剣道大会の優勝を記念して、大学から台湾親善試合に派遣されました。部長・監督さんたちと剣道部部員10人の旅でした。次の年に東京オリンピックが開催されて、海外旅行が自由化されましたが、外務省の許可なく海外旅行の出来ない頃で、準備も大変でした。

台湾の空港につくとカメラを持った沢山の新聞記者に囲まれ、インタビューを受けて戸惑ったのを覚えています。5,000人の観衆で超満員（ダブ屋も出ていたほど）の台北大学体育館で2試合、そして旅をしながら、台中・台南・嘉義・桃園など各地で大歓迎を受けながら、10日かけて台湾を回りました。この旅は私の若き時代の大きな思い出です。

最終日、台北に戻って、「市内の南海高校の剣道部が、熱心に稽古をしているので指導していただきたい。」と頼まれて訪問。校庭に集まった教職員と全校生徒の真ん中で、剣道部の高校生と練習試合と稽古をして、とても喜ばれました。

数年前のこと、京都大会の稽古会で「台湾・許」と書かれた垂を付けた7段の方と稽古をお願いした後、「私は昔、剣道で台湾を訪問してお世話になりました。」と話すと、『何時頃のことですか?』と聞かれて、話すうちに許先生が『私は明治大学に来ていただいた時の剣道部員です!』とビックリするような再会がありました。

そして今回、厚木の「剣道祭」に台湾から5人の剣道家がお見えになりますが、その名簿を読んで驚きました。《厚木剣道連盟に5人がお世話になるが、優秀なメンバーを選んだのでよろしくお願い致したい。》と書かれた後、「派遣責任者・許 介白」と、許先生のお名前が書かれていました。50年を超える不思議なご縁です。